

✓ C型肝炎治療最前線

●一般講演

『C型肝炎患者掘り起こしの取り組みについて』

～医療連携によるC型肝炎撲滅～

内科部長 野ツ俣 和夫

●特別講演

『C型肝炎に対する最新のIFNフリー治療』

新小倉病院 副院長兼肝臓病センター長

野村 秀幸 先生



内科部長

野ツ俣 和夫

(のつまた かずお)

平成28年1月29日（金）に、福井商工会議所にて第3回地域連携カンファレンス『C型肝炎治療最前線』を開催しました。院外の先生方29名を含む計102名にご参加をいただきました。大変多くの方にお集まりいただきまして誠に有難うございました。

まず当院より、“C型肝炎患者掘り起こしの取り組みについて～医療連携によるC型肝炎撲滅～”と題しまして、当院および福井県の取り組みについて紹介しました。C型肝炎は経口剤により副作用なくほぼ100%治る時代になりましたが、それは病院に来て、C型肝炎の診断、治療、フォローを受けた患者さんであり、まだ治療を受けていないC型肝炎ウイルスキャリアの方々を掘り起こし治療に結び付けるために、①無料肝炎ウイルス検査推進のための現状報告および具体的方法確認 ②HCV抗体陽性者の精密検査、治療への誘導を当院独自の電子カルテツールを利用したシステム ③情報提供の一つとして地域の先生を座長に依頼した院外肝臓教室の取組み ④福井県における肝炎コーディネーター養成の取組み ⑤C型肝炎治療患者治療中治療後のかかりつけ医との連携 ⑥その他先生方からのご提案を示しました。連携の先生方との協働によって福井県のC型肝炎撲滅を進めることが重要であると思えます。

次に、新小倉病院副院長兼肝臓病センター長 野村秀幸先生より、“C型肝炎に対する



最新のIFNフリー治療”と題した特別講演を行いました。200例以上のC型肝炎経口剤治療自験例の成績から、経口剤治療の効果、副作用、QOLの改善、注意点、ウイルス駆除後発癌、今後の問題、課題、生活指導について、大変詳しく分かりやすく御講演をいただきました。①ゲノタイプ1型、2型とも95～98%の駆除率であり、ALT値30台と正常でもさらに低下がみられ、AFP値もM2BPGi値も有意に低下する素晴らしい効果である事、②副作用、注意点は、高度腎機能障害例への使用、一部の薬剤相互作用以外はほとんど問題にならない事、③治療中アルブミン値上昇、コレステロール値上昇、血球増加がみられ、浮腫みが取れ、食欲増加、倦怠感減少がみられ、BDI-II（抑うつ評価尺）を用い客観的にもQOLが大きく改善する事を示し、④治療後は、ウイルス駆除後発癌を監視するための方策として、慢性肝炎、肝硬変に分けて、AFP、M2BPGiの推移から発癌リスクを予想する方法を提案し、⑤さらに重要なのは、生活指導であると強調されました。最後に、⑥最終目標は、ウイルス駆除だけでなく、QOL改善、寿命の確保、健康人と変わらない生活の実現であると熱弁されました。車いすで来られた高齢のC型肝炎患者さんが、経口剤治療終了時には自分で歩いて元気に来院されたというエピソードは大変印象的でした。

これからの肝臓病治療の大きな変革が感じられる大変有意義で貴重な講演でした。

地域連携カンファレンス

開催日時：年3回開催

最新の話題や症例などを様々なテーマで行っています。

奮ってご参加ください。

